

めざめ

カウンセリング Q&A

くえっ!!うちの娘がー

栃木県連合教育会相談員

Q 私は思わず、隣に立つ中2の娘の顔を見つめました。

夏休み近くのある晩、突然家庭訪問を受け、「近隣の方から学校に、制服姿の中学生がキスをしていたと通報がありましてー。目を伏せて言いづらそうに話す先生に「えっ!!うちの娘がー。」と思わず聞き返しました。「不純異性交流になりますので。」私の頭は一瞬真っ白になり、先生の言葉がぐるぐると頭の中をまわりました。やっと、「近隣の人が学校に知らせなきゃ

ならないことしたんだよ、わかる。」

娘は目をパチパチさせながら、口元をギューっと結び、一言「ハイ。」『家庭訪問を受けるようなみつともない事をして、何やってんの!!』と怒鳴りつけたい気持ちはありませんでしたが、固まっている娘の前に、かろうじて抑えました。相手は同級生のB君で、穏やかなご両親もよく知っています。先生が帰って座ってから、どんなところが好きなのか尋ねると、小さい弟や妹にとってもやさしいところだと答える

娘の言葉に、私は胸を突かれる思いがしました。外見ではなく、穏やかなやさしさに惹かれたということが、仕事を優先するような生活をしていた私に示されたのです。娘の言う通り、B君はやさしい子だと認め、明日から堂々としていいと伝え、しばらく見守ることにしました。

夏休みになると、娘から「祖母が縫ってくれた浴衣を着て祭りに行きたい。付け帯ではなく、本当の帯を締めた。」と言われました。仕事の都合で着つけてやれない私は、娘が自分で着られるよう、午前中の二時間で着つけと帯結びの練習を行いました。娘も出かけるためには一人で着なければならぬので、必死に二人で汗だくになって行いました。私は心配で後ろ髪をひかれる思いで仕事に行きました。祭りから帰宅した娘の第一声が「暑かったー。」です。気になっていたB君のこともさり気なく尋ねると、「普段着だった。他にも友だちいたからね。」と答える娘に、

浴衣を着くずすことなく帰宅したことに私は安堵しました。中2となり、学校生活も部活動も順調だと思っていた娘に私は、うぬぼれていたのです。親としてこれからどんな事に気をつけたらいいのでしょうか。

A 家庭訪問で聞かされた話に、冷水を浴びた程驚いたお母さん、ご自身の経験から全く想像もつかなかったね。怒鳴りつけたい気持ちの中には、お母さんの生き方で、みつともないことはしないという考えをお持ちであることがうかがえます。娘さんに「堂々としていい」と言った言葉にも表れています。娘さんは、お母さんが怒鳴りつけたい程怒っていることを、感じとっていたのでしょうか。学校では事実確認をしますから、「バレちゃった」と思った娘さんはその時からお母さんの反応を想像していたと思われまます。ところがお母さんは、怒りを抑え話を聞き、自分を認めしてくれた。娘さんは浮ついてはダ

メだと自覚したのではないでし
うか。

この娘さんのお母さんの反応を
気にする気持ちは、依存と自立を
繰り返しながら子どもから大人へ
移行していく思春期の子どもたち
の特徴です。この時期は、親が自
分に対して、どのように向きあ
うとしているかを量っていると
考え下さい。お母さんも娘さん
に対して、向きあい方を考える機
会になったからこそ、二人で奮闘
したあの汗だくの二時間になった
わけです。



「子どもは親の態度をよく見てい
る」思春期は心理的自立の時期で
すので、話をするにも頭ごなしの
物言いでは伝わりません。無視し
たり、反発したり、わかったふり
をするなど、親にとって扱いづら
さを感じる時期です。頭にくるよ

うな返事であっても、一度受け止
め、聞き役になって言わせてあげ
ると、お子さんは解答を求めてい
るのではなく、ただ聞いて欲しか
っただけということが多いのです。
愚痴や文句も同じで、お子さんな
りの言い分があるのを遮ってしま
うと、『話す』事自体を止めてしま
いかねません。うまく言葉に表せ
ないモヤモヤした気持ちでいるこ
とで、説明しなくても共感してく
れる仲間の存在が、大きくなって
いくのもこの時期です。

「叱る」やっていいこと悪いこ
との区別を教えることです。お
子さんには、あくまでも行為を否
定し、決して人格は否定しないで
下さい。短くわかりやすく、目を
見て、静かに本気で叱ってください
い。

「怒る」時に親はイライラを子ど
もにぶつけてしまうこともあります。
言い出したら止まらなくなる
ことも同様です。そんな時は、人
として、自分の弱さやいたらなさ
を、素直に「ごめんね。言いすぎ

た。」とすぐ謝ることができると、
子どもも、いずれ自分の困ってい
ることを親に相談できるようにな
っていきます。見守る中で親と子
のつながりが深くなっています。
「笑顔」それぞれの立場で忙しい
毎日を送っているみなさんですが、
心からの笑顔がでるのはいつです
か。お子さんの小さい頃の無邪気
な様子を思い出して下さい。抱き
しめた時の体温、ムチムチの手足、
かわいらしい声を思い出すと、ご
自身のほころぶ笑顔を思い出し、
気持ちいがほぐれませんか。湯気の
立つご飯、温かいみそ汁、布団の
ぬくもり等、五感で感じる気持ち
良さは何かあるはず。そのほ
ぐれた気持ちでお子さんに向き合
うと、「ああ、こんなに成長してい
るのか」と困った思いとは角度を
変えた見方ができるのです。気持
ちは不思議なことに伝染してい
くものです。一瞬の和やかさが空
気を変えていくきっかけになるよう
試してみてくださいたらと思いま
す。繰り返し、あきらめずです。



こちらの家庭教育通信を
お読みいただいたご感想を
お聞かせください!



真岡市では家庭教育について情報を
発信しています!
ご覧いただき、ぜひご活用ください。

感想フォームは
ログイン不要で
送信できます!

まってる
ぴょん♪

